一般社団法人 日本作業療法士協会
Japanese Association of Occupational Therapists

先生の「困りごと」、作業療法で解決できるかも。

作業療法士による６つの支援事例

CASE 01
音読が苦手で学習を嫌がるようになってきた

CASE 02
指示が伝わらず、友達とトラブルを起こしてしまう

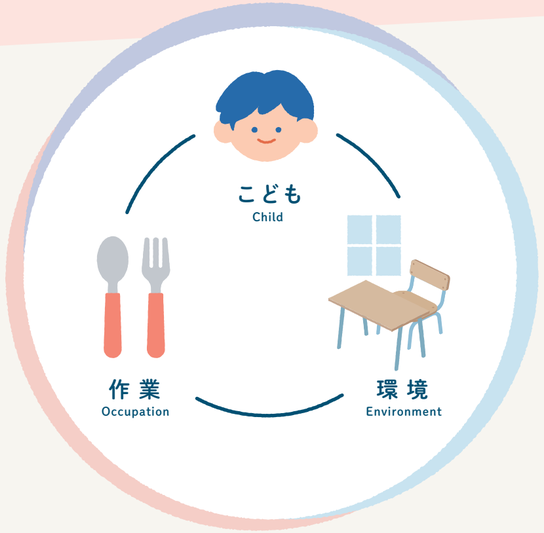
CASE 03
筆記に時間がかかり、姿勢も崩れてしまう

CASE 04
こどもたちが授業に集中しない

CASE 05
トイレに行きたいことを自分から伝えられない

CASE 06
卒業後の生活を見据え、余暇活動を広げたい

作業療法士は、「できない理由」を探すのではなく、「どうすればできるか」を こども・環境・作業 の視点から考えます。



作業療法士ってどんな仕事？

日本に約 11 万人いるリハビリテーションの専門職です。
医療や介護、障害福祉、児童福祉などの幅広い領域で活動しています。
からだの怪我や障害だけではなく、認知機能や精神機能にも働きかける、こころとからだの両方を対象とするのが作業療法の特徴です。

対象となる年齢やこどもについて

作業療法は、こどもから高齢者まで幅広い年代の方を対象としています。
学校では、幼稚園・保育園から小学校、中学校、高校まで、さまざまな場面で関わることができます。
また、特別支援学校や特別支援学級だけでなく、通常の学級でもこどもたちの学校生活を支えることができます。

作業って？
食べたり、お風呂に入ったり、仕事をしたり、遊んだり。
人の日常生活に関わるすべての活動を「作業」と呼びます。

作業療法士が学校でできること

こども一人ひとりに合わせて支援します

学校生活の中で「やりにくさ」や「困りごと」を感じているこどもを支援し、学習や遊びなどの活動を通して、一人ひとりに合った関わり方を考えます。

こどもと環境の両方を見て考えます

こどもの体の動きや認知の特性だけでなく、教室の環境や道具、人との関わりなども含めて見ていきます。こどもと環境の両方から支援を考えます。

活動への参加を大切に支援します

作業療法では、「できた」という経験を大切にし、学習や遊びなど学校生活の活動に参加できるよう、方法や環境の工夫を提案します。

先生による支援方法を一緒に考えます

授業や学校生活の中で見られるこどもの困りごとについて整理し、作業療法の視点から関わり方や支援の工夫を先生と一緒に考えます。

保護者とも連携しながら支援します

学校での様子や支援の方法を保護者と共有し、家庭でも無理なく取り組める工夫を伝えながら、学校と家庭がともにこどもの成長を支えられるように支援します。

Case.01

音読が苦手で学習を嫌がるようになってきた

ー こどもの特性に合わせて学び方を工夫する ー

対象 小学校（通級指導教室）
学年 小学 2 年生
地域 奈良県
診断名 限局性学習症（SLD）、発達性協調運動症（DCD）

活用した制度 市町村の巡回相談事業

県の障害福祉課からの委託事業として、学期に 1 度の頻度（3 回 / 年）で作業療法士が学校を訪問し、授業の様子を観察して先生方へ助言を行っています。

先生の困りごと

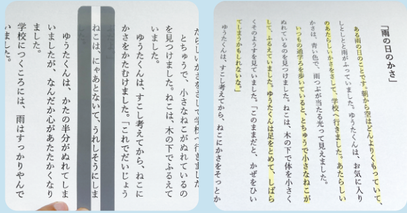
音読のときに読み間違いが多く、行を飛ばしてしまうことがありました。
音読への苦手意識が強くなり、学習を嫌がる様子が見られるようになりました。

作業療法士がおこなったこと

授業中の音読の様子を観察し、文字の追い方や読み方を確認しました。
その結果、読字の難しさの背景にある要因を整理し、読みやすさをサポートする道具の使用を提案しました。

［こどもの状態］

音読をする時に、読み間違いが多く特に行が変わるときに 1 行飛ばしてしまうことが多く見られました。



「雨の日のかき」

ある雨の日のことです。朝から夜ほどとても くらくていて、とても雨がふっていました。ゆうたくんは、お気に入りの あたらしいかさをさして、学校へ行きました。あたらしいかさは、青い色で、雨つぶが当たると ぱらぱらと いい音がするので、とちゅうで小さなねこが 雨にぬれているのを見つけました。ねこは、木の下で 体を小さくして、ふるえていました。ゆうたくんは思をとめて、しばらくそのようすを見ていました。「このままだと、かぜをひいてしまうかもしれないな」

ゆうたくんは、すこし考えてから、ねこにかさをそっとかたむけしめさせるようにして雨の中へ行きました。

とちゅうで、小さなねこがぬれているのを見つけました。ねこは、木の下でふるえていました。

ゆうたくんは、すこし考えてから、ねこにかさをかたむけました。「これでだいじょうぶ」

ねこは、にゃあとないて、うれしそうにしました。

ゆうたくんは、かたの半分がぬれてしまいましたが、なんだか心があたたかくなりました。

学校につくころには、雨はすっかりやんでいました。

［作業療法士の提案］

読む行だけが見えるスリットの使用を試しましたが、不器用さもあり使いこなせなかったので、教科書に蛍光マーカーで 1 行おきにラインを引く方法を提案しました。

［こどもの変化］

読む行が分かりやすくなり、読み間違いが減りました。音読への苦手意識も少しずつ軽減しました。

作業療法士の視点

読むときの目の動きや手先の使い方など、こどもの特性を踏まえて道具や環境を調整することで、学びやすい方法を見つけました。

Case.02

指示が伝わらず、友だちとトラブルを起こしてしまう

ー こどもの興味をきっかけに関わりを広げる ー

対 象 小学校（通級指導教室）
学 年 小学 3 年生
地 域 北海道
診断名 自閉スペクトラム症（ASD）

活用した制度 市町村の巡回相談事業

教育委員会の委託事業として年 1 ～ 4 回の頻度で作業療法士が学校を訪問し、担任や保護者と連携しながら支援を行っています。

先生の困りごと

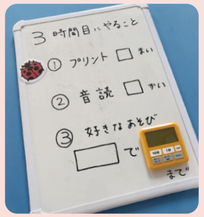
授業中に指示が伝わりにくく、突発的な発言で友だちとのトラブルにつながることもあり、保護者の方もどうしたらよいか分からず悩んでいる状態でした。

作業療法士がおこなったこと

教室や通級指導教室での様子を観察し、こどもの特性に合った支援方法を検討しました。
また、担任や通級担任の先生と話し合いを行うとともに、保護者とも面談を行い、支援の方向性を共有しました。

［こどもの状態］

口頭指示の理解が難しく、見通しの立たなさに不安を感じて活動に参加しにくい様子がありました。また相手の気持ちに気づきにくく、友だちとトラブルになることもありました。



［ 作業療法士の提案 ］

1 日の予定を視覚的に示す「わたしの 1 日ボード」を作成し、本人の好きな虫をきっかけに先生や友だちとの関わりを広げる工夫を提案しました。

［こどもの変化］

予定が見えることで安心して活動に参加できるようになりました。本人の好きなことを通じて先生や友だちとの関わりも増えて、家族の安心につながりました。

作業療法士の視点

自閉スペクトラム症（ASD）のこどもが安心して力を発揮できる環境を整えることや、興味のあることをきっかけに家族を含めた関係づくりを進めることも重要な支援です。

Case.03

筆記に時間がかかり、姿勢も崩れてしまう

ー 道具や環境を整え、学びやすい条件をつくる ー

- 対 象　中学校（通常の学級）
- 学 年　中学 2 年生
- 地 域　北海道
- 診断名　先天性ミオパチー

活用した制度　保育所等訪問支援

児童福祉法に基づく「保育所等訪問支援」として、専門職が学校を訪問し学習参加を支援しています。月 2 回程度（60〜120 分程度）が一般的で、概ね 6 か月ごとに実施状況を振り返るモニタリングを行っています。

先生の困りごと

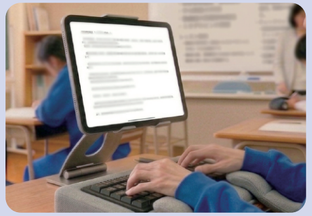
文字を書くのに時間がかかり、授業の後半になると疲れてしまいます。
姿勢を保つことも難しい様子でした。

作業療法士がおこなったこと

授業中の姿勢や書字の様子、時間の経過による疲労の変化を観察し、学習の負担となっている要因を整理しました。その結果に基づき、姿勢を安定させるための調整や身体的に負担の少ない道具の活用、計画的な休憩の取り方など、学習を続けやすくするための合理的配慮を提案しました。

［こどもの状態］

筋力や持久力の低下により姿勢が崩れやすく、筆圧を保つことが難しいため書くスピードが徐々に遅くなっていました。



［ 作業療法士の提案 ］

タブレットやキーボードの使用、斜面ボードの活用、授業中の休憩などを提案しました。
テストでもタブレットを使用し、時間延長を行いました。

［こどもの変化］

姿勢が安定し、書くときの疲れが減りました。
テストでも回答できる問題が増えました。

作業療法士の視点

先天性ミオパチーのあるこどもの学習場面では、「書く」「姿勢を保つ」といった身体的な負担の軽減に目を向け、学びやすい環境を整えました。

Case.04

こどもたちが授業に集中しない

ー 学びやすい環境づくりも作業療法の大切な役割 ー

対 象 小学校（特別支援学級）
学 年 小学 2 年生
地 域 岐阜県

活用した制度 市の委託事業

市の委託事業として、作業療法士が学校に月２回定期的に訪問し、学校全体・クラス・個人に対して多層的にアプローチしながら支援を行っています。

先生の困りごと

授業中にこども同士で遊んでしまい集中できないことがありました。
また落とし物をするたびに授業が中断していました。

作業療法士がおこなったこと

授業中の教室の様子を観察し、学習の妨げとなっている要因を整理しました。そのうえで教員と話し合い、こどもが学習に集中しやすい環境づくりとして、落とし物の持ち主探しで授業が中断しないような仕組みづくりなど、教室環境の調整を行いました。

［クラスの状態］

授業中でも会話や遊びが始まることがあり、落とし物が散乱。持ち主を探す度に授業が中断していました。

［作業療法士の提案］

机の周りに仕切りを設けることや、落とし物ボックスを設置するなど、教室環境を整えることを提案しました。

［クラスの変化］

自分から席に着いて授業に向き合う姿が増え、授業の進行もスムーズになりました。

作業療法士の視点

こどもの様子を観察するだけではなく、先生と協働して学習環境を整えることでクラス全体の教育への「参加」をサポートします。

Case.05

トイレに行きたいことを自分から伝えられない

ー トイレの自立を支える支援 ー

対 象　特別支援学校（知的障害）
学 年　中学部２年
地 域　鹿児島県
診断名　重度知的障害・自閉スペクトラム症（ASD）

活用した制度　障害児等療育支援事業

障害児等療育支援事業として学期に１度（3 回 / 年）の頻度で、作業療法士が学校を訪問し支援を行っています。

先生の困りごと

トイレに連れて行けば成功するものの、自分から行きたいと伝えることができませんでした。

作業療法士がおこなったこと

本人の認知発達の段階やトイレ場面での行動を観察し、支援方法を検討しました。その結果、絵カードによる方法からトイレ用トートバッグを使う方法に変更し、少しずつ段階を踏みながら、自分からトイレへ向かう行動につながる支援を提案しました。

［こどもの状態］

トイレ誘導では成功することが多い一方、自分からの発信が難しく、紙パンツを使用していました。

［作業療法士の提案］

トイレのときにタオルや紙パンツを入れたトートバッグを持つ方法を提案しました。

［こどもの変化］

トートバッグを持ってトイレに向かう行動が増え、排尿の成功率が大きく高まりました。

作業療法士の視点

こどもの発達段階や理解の仕方に合わせて、行動につながる分かりやすい手がかりをつくることが重要です。

Case.06

卒業後の生活を見据え、余暇活動を広げたい

ー重度障害のあるこどもの余暇活動支援 ー

対 象 特別支援学校 (肢体不自由)
学 年 高等部２年生
地 域 神奈川県
診断名 脳性麻痺（重症心身障害児）

活用した制度 自立活動教諭の特別免許状制度

都道府県の教育委員会の特別免許状制度により、作業療法士が学校教育の中で専門的な支援を先生と協働して行っています。

先生の困りごと

卒業後の生活を見据え、楽しめる余暇活動を増やしたいと考えていました。

作業療法士がおこなったこと

こどもの興味のあることや体の動きを観察し、どのような活動なら楽しみながら参加できるかを整理しました。
その結果をもとに、卒業後の余暇活動の充実や社会参加につながるよう、担任の先生とともに自立活動の内容や個別の指導計画を検討し、実践しました。

［こどもの状態］

発語はなく、表情や体の動きで意思を示します。光や音楽には反応があり、手を握る動きが見られました。

［ 作業療法士の提案 ］

わずかな動きでも反応するセンサーを導入。室内プラネタリウムに接続し星空を灯したり、タブレット端末で音楽を選んだりできる仕組みを導入しました。

［こどもの変化］

「動きで楽しいことが起こる」ということを学習し、自分の動きでプラネタリウムに星空を灯したり、好きな音楽を選んだりする様子が見られるようになりました。

作業療法士の視点

自分の行動で環境が変わる経験は、自己選択や自己決定につながります。わずかな動きを活かして楽しめる活動をつくりました。

「どう関われればいいのだろう」

こどもの困りごとに向き合う先生のそばに、
一緒に考える専門職がいます。

まずは私たち作業療法士に相談してみませんか？

一般社団法人 日本作業療法士協会
Japanese Association of Occupational Therapists

〒111-0042
東京都台東区寿 1-5-9 盛光伸光（もりみつしんこう）ビル 7 階
TEL:03-5826-7871 ／ FAX:03-5826-7872

https://www.jaot.or.jp/

発行日：2026 年 5 月